

# 即興政治論

## 考えるポイント 見方のヒント

所得や地域間の格差が指摘される中、人々が持つ希望にも格差が生まれ、日本社会に影を落としていると指摘されています。皆が明るい希望を持てる社会にするには、政治はどんな役割を果たすべき

でしょうか。政治学者で東大社会科学研究所の「希望学プロジェクト」にも取り組んでいる宇野重規さんと考えました。

記者・豊田 洋一



### Q 今の日本、希望を持てますか？

豊田 希望は人々の行動の原動力であり、希望を失った人が増えれば、社会は暗くなり、日本では本当に今、希望を持つ人と持てない人の格差が広がっているのでしょうか。現状をどう分析していますか。

宇野 希望学プロジェクトが昨年一月、全国の約二千人を対象に行ったアンケートでは、現在八割の人が何らかの希望を持っていると答え、さらに六割は漠然とした希望ではなく、将来実現の可能性がある具体的な希望を持つという回答しました。私たちはプロジェクトを始めた時点で、「今は希望がない」という大前提で議論を始めましたから、これは意外でした。

豊田 世代による違いはあるのですか。

## 政治学者 宇野 重規さん

# 減収、高齢化が 頭打ち感生む

宇野 希望の類型として、年齢や所得など個人の社会的属性との間にどのような関係があるかを調べると、年齢との関係が非常に強いことが分かります。今、若い人は希望がなく、若い人には希望がないという議論がされていますが、調査すると、若者のほうが希望があり、お年寄りほどありません。人は年を取るにつれて希望がなくなり、希望と年齢との関係が非常に強いことが分かります。例えば、年収三百万円未満と比較すると、年収三百万円以上の人は希望が非常に強いことが分かります。これは、所得と希望との関係が非常に強いことを示しています。また、高齢化が進むにつれて、希望が弱くなる傾向があることも分かります。これは、高齢者が希望を持つことが難しくなることを示しています。したがって、希望を持てる社会にするには、政治は高齢者の希望をサポートする役割を果たすべきです。

宇野 希望の類型として、年齢や所得など個人の社会的属性との間にどのような関係があるかを調べると、年齢との関係が非常に強いことが分かります。今、若い人は希望がなく、若い人には希望がないという議論がされていますが、調査すると、若者のほうが希望があり、お年寄りほどありません。人は年を取るにつれて希望がなくなり、希望と年齢との関係が非常に強いことが分かります。例えば、年収三百万円未満と比較すると、年収三百万円以上の人は希望が非常に強いことが分かります。これは、所得と希望との関係が非常に強いことを示しています。また、高齢化が進むにつれて、希望が弱くなる傾向があることも分かります。これは、高齢者が希望を持つことが難しくなることを示しています。したがって、希望を持てる社会にするには、政治は高齢者の希望をサポートする役割を果たすべきです。

宇野 希望の類型として、年齢や所得など個人の社会的属性との間にどのような関係があるかを調べると、年齢との関係が非常に強いことが分かります。今、若い人は希望がなく、若い人には希望がないという議論がされていますが、調査すると、若者のほうが希望があり、お年寄りほどありません。人は年を取るにつれて希望がなくなり、希望と年齢との関係が非常に強いことが分かります。例えば、年収三百万円未満と比較すると、年収三百万円以上の人は希望が非常に強いことが分かります。これは、所得と希望との関係が非常に強いことを示しています。また、高齢化が進むにつれて、希望が弱くなる傾向があることも分かります。これは、高齢者が希望を持つことが難しくなることを示しています。したがって、希望を持てる社会にするには、政治は高齢者の希望をサポートする役割を果たすべきです。



1967年、東京生まれ。91年、東京大学法学部卒。同大学院博士課程単位取得退学後、千葉大法経学部助教授を経て、現在、東大社会科学研究所准教授。著書に「政治哲学へ、現代フランスとの対話」(東大出版会)など。

に否定的な見解を有する傾向があります。世帯収入や高所得世帯数が減り、進学率も二世代、三世代の悪化に伴って伸び悩んでいます。こうした要因は明らかに、実現見通しのある希望を持つ人の割合を下げる傾向にあります。また、お年寄りの希望が弱くなる傾向が、社会で高齢化が進めば、当然、社会全体では希望を持つ人の割合は下がります。希望を持つ人の割合が激減しているとは言えませんが、ある種の頭打ち感はあるのではないのでしょうか。

### 現在あなたは将来に対する希望がありますか？



その希望は実現できると思えますか？

実現できる	24.1
たぶん実現できる	57.3
あまり実現できそうにない	17.0
実現できそうもない	1.6

その希望はいつごろ実現できそうですか？

1年以内	16.8
2~3年	31.7
4~5年	23.8
6~10年	21.6
11年以上	6.1

※東大社会科学研究所希望学プロジェクトが2006年10月、全国の20歳以上60歳未満を対象に実施した調査結果。実施期間は1週間。調査方法は、電話調査による。